



第2学期が始まって一週間が経ちました。まずは幼稚園生活のリズムを整えることを第一にしながらも、目前に控えた「運動会」に向けての活動にも取り組む白ゆりっ子達です。

この2学期は、子ども達が“グン”と伸びる学期です！ それぞれの年齢に応じたカリキュラムの中で、「できた！」の喜びを重ねながら、自信と意欲と思いやりの芽を育てていきます。



＝つぼみぐみ＝

園生活の中で「自分でできること！」を一つずつ増やしていきます。
自分の身の回りのことを自分の力でできるようになる… そんな小さな
「できた！」の積み重ねが、自信の“芽”を育てます。
それを保護者の方や教師達から認められた時の笑顔が、次への挑戦の
大きな力になります。

＝年少児＝

読み書きや逆立ちなどの「課題」への挑戦が本格的にスタートします！
「自信」という種から「意欲」という芽が顔を出し始めた子ども達です。
毎日の園生活で「できること！」をバランスよく取り組み、上達の喜び
や満足感をたっぷり味わうことが、次へのステップアップの原動力！

＝年中児＝

「意欲」の芽は青々と葉を広げ、蕾も膨らみ始めました。「やってみよう！」
という気持ちに寄り添いながら、「育ち合い（共同・協同・協働）」の活動
を通して、主体性を育てます。粘り強さや努力の楽しさを体験し、白ゆ
りの幼児教育が大切にしている「4つの力」にスイッチが入ります。



＝年長児＝

白ゆりっ子のリーダーとして、時には優しく、時には力強く、弟妹達を牽引
してくれます。
自分で考え、行動し、最後までやり抜く粘り強さを身に付けます。気持ちを
コントロールしながら挑戦を続ける姿は、在園児の弟妹達の憧れとなり、小
学校就学の大きな自信に繋がります。



2学期も子ども達一人ひとりの成長の物語を、丁寧に紡いでいきます。ご期待下さい！

「自己肯定感」って、本当に高めなければならないの？

この夏休み期間に参加した勉強会で、ある講師の方から聞いたお話です。色々と言語があるとは思いますが、子育ての参考の一つになれば…と、ここで紹介させていただきます。

今や教育の現場や子育てで当たり前のように使われる「自己肯定感」という言葉ですが、これは昔からあった概念ではありません。元々は1990年代、政府が発表した「日本人は諸外国に比べて圧倒的に自己肯定感が低い」という調査結果から広まった言葉です。その報道により、私は「日本人＝自己肯定感が低い」というレッテルを貼られたような感覚を持つようになりました。

その後「自己肯定感を高めなければ！」という意識が教育現場にも広がりましたが、その結果、別の課題も見えてきました。「自己肯定感を高められないことが、逆に苦しみになっている…」つまり、「自己肯定感が低いのはダメ！」という思い込みが、子どもや保護者を追い詰めてしまっている場合があるのです。さらに興味深いのは、引きこもりや不登校の若者の中には、自己肯定感が高い子が多いという報告です。小さい頃から「あなたはそのままでもいい」「やりたいことをやればいい…」と、あらゆることを肯定されて育った結果、現実の中でぶつかる壁やストレスへの耐性が弱くなり、困難に直面した時に立ち向かえない場合があるといえます。「ストレスが無さすぎても病気になる！」のです。心地良いメッセージに酔い、自分の力を試す機会を持たないまま大きな現実と直面すると、耐えきれずに「自爆」してしまうことがあるのです。

幼児教育の現場や子育てにおいては、自己肯定感を無理に引き上げようとするより、日々の中で「達成感」や「乗り越えた経験」を積み重ねることが結果的に自然な自信に繋がります。失敗も経験です。むしろ小さな挫折やストレスに出会い、それを乗り越える練習を幼児期から積み重ねていくことが、将来の心のしなやかさを育みます。YouTuberの大愚元勝（だいぐげんしょう）氏（心理学を学んだお坊さん）は、自身のYouTubeチャンネルで、無理に「自己肯定感を高めよう」と頑張るより、「自己肯定感は低くても大丈夫！」と思えることが大切で、この「ありのままでもいい！」という思いこそ、自分の心を本当に安定させる「潜在的な自信」に繋がります。自信は自らで築くのではなく、自分のできることできないことを冷静に知ることが「真の自信」だと語っています。自分を無理に良く見せようとするのではなく、自分の弱さや限界も含めて認め、日々行動できる強さを養うことが本当の意味での心の安定に繋がるのではないのでしょうか？

例えば、我が子が「できなかった…」と落ち込んで、「大丈夫！それでいいよ！一生懸命やったことが大事！」と静かに受け止めてあげる… それだけで子どもは、外からの「～しなければならない」のプレッシャーから解放され、自分らしさも大切にできるようになりますね。

「自己肯定感が高ければ幸せになれる」という単純な話ではなく、高すぎても低くすぎても、どちらにも課題があります。子育ての中で大切にしなければならないのは、我が子が成功も失敗も自然に経験し、自分なりに意味付けする環境を用意してあげることで、そして上手く行かない時も含めて、「あなたは大切な存在！」と伝え続けることです。

ここからは「私見」です。日本人は古来より「謙虚さ」「謙遜」が美德とされてきました。相手を立て、自分を控えめにする姿勢は、和を大切にする社会に根付いた価値観です。欧米のような他民族社会で生き抜くために必要な「自分ファースト」が当たり前の価値観と比較して、日本人の自己肯定感が低いのは当然です。それが日本人の「美德」だからです。欧米の価値観を日本にそのまま持ち込み「自己主張できない＝劣っている」とレッテルを貼る必要は無いように感じます。幼児教育や子育ての場で大切なのは、「謙虚さ」を大切にしながら、自分の考えや気持ちを適切に伝えられる… その中庸（バランス）を目指すことで、それが子ども達にとって必要な力ではないでしょうか！ 「謙虚さ」は日本人の「宝」… この価値観は大切にしたいです。